

馬面

この顔面鎧は漆塗りの革製で、重さは約 400g と非常に軽いのが特徴である。目穴、鼻先、紋の周りの滑らかな金の部分は蒔絵である。目の縁や耳の内側には朱色の漆が使われている。頭頂部の円形の装飾は徳川家の家紋で、葵の葉が 3 枚描かれている。

鎧の装飾や軽さから、戦闘用ではなく、観兵式や儀式用であったと思われる。徳川 14 代将軍家茂（1846-1866）の所領として久能山東照宮に寄贈されたものである。家茂は馬好きであったが、この鎧を着用した馬がいたかどうかは不明である。

額の繊維はヤクの毛である。武士は強い動物を描いた兜をかぶったり、その動物の体の一部を使ったりして、自分も同じように強くなりたいという願いを込めることが多い。このヤクの毛も同じような意味を持っているのかもしれない。